

受難日の物語 四福音書比較

マタイ 27 章	マルコ 15 章	ルカ 23 章	ヨハネ 18 - 19 章
<p>◆ピラトに引き渡される</p> <p>1 夜が明けると、祭司長たちと民の長老たち一同は、イエスを殺そうと相談した。</p> <p>2 そして、イエスを縛って引いて行き、総督ピラトに渡した。</p>	<p>◆ピラトから尋問される</p> <p>1 夜が明けるとすぐ、祭司長たちは、長老や律法学者たちと共に、つまり最高法院全体で相談した後、イエスを縛って引いて行き、ピラトに渡した。</p>	<p>◆ピラトから尋問される</p> <p>1 そこで、全会衆が立ち上がり、イエスをピラトのもとに連れて行った。</p>	<p>◆ピラトから尋問される</p> <p>28 人々は、イエスをカイアファのところから総督官邸に連れて行った。明け方であった。しかし、彼らは自分では官邸に入らなかった。汚れないで過越の食事をするためである。</p>
<p>◆ユダ、自殺する</p> <p>3 そのころ、イエスを裏切ったユダは、イエスに有罪の判決が下ったのを知って後悔し、銀貨三十枚を祭司長たちや長老たちに返そうとして、</p> <p>4 「わたしは罪のない人の血を売り渡し、罪を犯しました」と言った。しかし彼らは、「我々の知ったことではない。お前の問題だ」と言った。</p> <p>5 そこで、ユダは銀貨を神殿に投げ込んで立ち去り、首をつって死んだ。</p> <p>6 祭司長たちは銀貨を拾い上げて、「これは血の代金だから、神殿の収入にするわけにはいかない」と言い、</p> <p>7 相談のうえ、その金で「陶器職人の畑」を買い、外国人の墓地にすることにした。</p> <p>8 このため、この畑は今日まで「血の畑」と言われている。</p> <p>9 こうして、預言者エレミヤを通して言われていたことが実現した。「彼らは銀貨三十枚を取った。それは、値踏みされた者、すなわち、イスラエルの子らが値踏みした者の価である。</p> <p>10 主がわたしにお命じになったように、彼らはこの金で陶器職人の畑を買い取った。」</p>			
<p>◆ピラトから尋問される</p> <p>11 さて、イエスは総督の前に立たれた。総督がイエスに、「お前がユダヤ人の王なのか」と尋問すると、イエスは、「それは、あなたが言っていることです」と言われた。</p> <p>12 祭司長たちや長老たちから訴えられている間、これには何もお答えにならなかった。</p> <p>13 するとピラトは、「あのようにお前に不利な証言をしているのに、聞かえないのか」と言った。</p> <p>14 それでも、どんな訴えにもお答えにならなかったのので、総督は非常に不思議に思った。</p>	<p>2 ピラトがイエスに、「お前がユダヤ人の王なのか」と尋問すると、イエスは、「それは、あなたが言っていることです」と答えられた。</p> <p>3 そこで祭司長たちが、いろいろとイエスを訴えた。</p> <p>4 ピラトが再び尋問した。「何も答えないのか。彼らがあのようにお前を訴えているのに。」</p> <p>5 しかし、イエスがもはや何もお答えにならなかったのので、ピラトは不思議に思った。</p>	<p>2 そして、イエスをこう訴え始めた。「この男はわが民族を惑わし、皇帝に税を納めるのを禁じ、また、自分が王たるメシアだと言っていることが分かりました。」</p> <p>3 そこで、ピラトがイエスに、「お前がユダヤ人の王なのか」と尋問すると、イエスは、「それは、あなたが言っていることです」とお答えになった。</p> <p>4 ピラトは祭司長たちと群衆に、「わたしはこの男に何の罪も見いだせない」と言った。</p> <p>5 しかし彼らは、「この男は、ガリラヤから始めてこの都に至るまで、ユダヤ全土で教えながら、民衆を扇動しているのです」と言い張った。</p>	<p>29 そこで、ピラトが彼らのところへ出て来て、「どういう罪でこの男を訴えるのか」と言った。</p> <p>30 彼らは答えて、「この男が悪いことをしていなかったら、あなたに引き渡しはしなかったでしょう」と言った。</p> <p>31 ピラトが、「あなたたちが引き取って、自分たちの律法に従って裁け」と言うと、ユダヤ人たちは、「わたしたちには、人を死刑にする権限がありません」と言った。</p> <p>32 それは、御自分がどのような死を遂げるかを示そうとして、イエスの言われた言葉が実現するためであった。</p> <p>33 そこで、ピラトはもう一度官邸に入り、イエスを呼び出して、「お前がユダヤ人の王なのか」と言った。</p> <p>34 イエスはお答えになった。「あなたは自分の考えで、そう言うのですか。それとも、ほかの者がわたしについて、あなたにそう言ったのですか。」</p> <p>35 ピラトは言い返した。「わたしはユダヤ人なのか。お前の同胞や祭司長たちが、お前をわたしに引き渡したのだ。いったい何をしたのか。」</p> <p>36 イエスはお答えになった。「わたしの国は、この世には属していない。もし、わたしの国がこの世に属していれば、わたしがユダヤ人に引き渡されないように、部下が戦ったことだろう。しかし、実際、わたしの国はこの世</p>

			<p>には属していない。」</p> <p>37 そこでピラトが、「それでは、やはり王なのか」と言うと、イエスはお答えになった。「わたしが王だとは、あなたが言っていることです。わたしは真理について証しをするために生まれ、そのためにこの世に来た。真理に属する人は皆、わたしの声を聞く。」</p> <p>38 ピラトは言った。「真理とは何か。」</p>
		<p>◆ヘロデから尋問される</p> <p>6 これを聞いたピラトは、この人はガリラヤ人かと尋ね、</p> <p>7 ヘロデの支配下にあることを知ると、イエスをヘロデのもとに送った。ヘロデも当時、エルサレムに滞在していたのである。</p> <p>8 彼はイエスを見ると、非常に喜んだ。というのは、イエスのうわさを聞いて、ずっと以前から会いたいと思っていて、イエスが何かしるしを行うのを見たいと望んでいたからである。</p> <p>9 それで、いろいろと尋問したが、イエスは何もお答えにならなかった。</p> <p>10 祭司長たちと律法学者たちはそこにいて、イエスを激しく訴えた。</p> <p>11 ヘロデも自分の兵士たちと一緒にイエスをあざけり、侮辱したあげく、派手な衣を着せてピラトに送り返した。</p> <p>12 この日、ヘロデとピラトは仲がよくなった。それまでは互いに敵対していたのである。</p>	
<p>◆死刑の判決を受ける</p> <p>15 ところで、祭りの度ごとに、総督は民衆の希望する囚人を一人釈放することにしていた。</p> <p>16 そのころ、バラバ・イエスという評判の囚人がいた。</p> <p>17 ピラトは、人々が集まって来たときに言った。「どちらを釈放してほしいのか。バラバ・イエスか。それともメシアといわれるイエスか。」</p> <p>18 人々がイエスを引き渡したのは、ねたみのためだと分かっていたからである。</p> <p>19 一方、ピラトが裁判の席に着いているときに、妻から伝言があった。「あの正しい人に関係しないでください。その人のことで、わたしは昨夜、夢で随分苦しめられました。」</p> <p>20 しかし、祭司長たちや長老たちは、バラバを釈放して、イエスを死刑に処してもらうようにと群衆を説得した。</p> <p>21 そこで、総督が、「二人のうち、どちらを釈放してほしいのか」と言うと、人々は、「バラバを」と言った。</p> <p>22 ピラトが、「では、メシアといわれているイエスの方は、どうしたらよいか」と言うと、皆は、「十字架につけろ」と言った。</p> <p>23 ピラトは、「いったいどんな悪事を働いたのか」と言ったが、群衆はますます激しく、「十字架につけろ」と叫び続けた。</p> <p>24 ピラトは、それ以上言っても無駄なばかりか、かえって騒動が起こりそうなを見て、水を持って来させ、群衆の前で手を洗って言った。「この人の血について、わたしには責任がない。お前たちの問題だ。」</p>	<p>◆死刑の判決を受ける</p> <p>6 ところで、祭りの度ごとに、ピラトは人々が願ひ出る囚人を一人釈放していた。</p> <p>7 さて、暴動のとき人殺しをして投獄されていた暴徒たちの中に、バラバという男がいた。</p> <p>8 群衆が押しかけて来て、いつものようにしてほしいと要求し始めた。</p> <p>9 そこで、ピラトは、「あのユダヤ人の王を釈放してほしいのか」と言った。</p> <p>10 祭司長たちがイエスを引き渡したのは、ねたみのためだと分かっていたからである。</p> <p>11 祭司長たちは、バラバの方を釈放してもらうように群衆を扇動した。</p> <p>12 そこで、ピラトは改めて、「それでは、ユダヤ人の王とお前たちが言っているあの者は、どうしてほしいのか」と言った。</p> <p>13 群衆はまた叫んだ。「十字架につけろ。」</p> <p>14 ピラトは言った。「いったいどんな悪事を働いたのか。」群衆はますます激しく、「十字架につけろ」と叫び立てた。</p> <p>15 ピラトは群衆を満足させようと思って、バラバを釈放した。そして、イエスを鞭打ってから、十字架につけるために引き渡した。</p>	<p>◆死刑の判決を受ける</p> <p>13 ピラトは、祭司長たちと議員たちと民衆とを呼び集めて、</p> <p>14 言った。「あなたたちは、この男を民衆を惑わす者としてわたしのところに連れて来た。わたしはあなたたちの前で取り調べたが、訴えているような犯罪はこの男には何も見つからなかった。</p> <p>15 ヘロデとも同じであった。それで、我々のもとに送り返してきたのだが、この男は死刑に当たるようなことは何もしていない。</p> <p>16 だから、鞭で懲らしめて釈放しよう。」</p> <p>†</p> <p>18 しかし、人々は一斉に、「その男を殺せ。バラバを釈放しろ」と叫んだ。</p> <p>19 このバラバは、都に起こった暴動と殺人のかどで投獄されていたのである。</p> <p>20 ピラトはイエスを釈放しようと思って、改めて呼びかけた。</p> <p>21 しかし人々は、「十字架につけろ、十字架につけろ」と叫び続けた。</p> <p>22 ピラトは三度目に言った。「いったい、どんな悪事を働いたと言うのか。この男には死刑に当たる犯罪は何も見つからなかった。だから、鞭で懲らしめて釈放しよう。」</p> <p>23 ところが人々は、イエスを十字架につけるようにあくまでも大声で要求し続けた。その声はますます強くなった。</p> <p>24 そこで、ピラトは彼らの要求をいれる決定を下した。</p>	<p>◆死刑の判決を受ける</p> <p>ピラトは、こう言うてからもう一度、ユダヤ人たちの前に出て来て言った。「わたしはあの男に何の罪も見いだせない。</p> <p>39 ところで、過越祭にはだれか一人をあなたたちに釈放するのが慣例になっている。あのユダヤ人の王を釈放してほしいか。」</p> <p>40 すると、彼らは、「その男ではない。バラバを」と大声で言い返した。バラバは強盗であった。</p> <p>1 そこで、ピラトはイエスを捕らえ、鞭で打たせた。</p> <p>2 兵士たちは茨で冠を編んでイエスの頭に載せ、紫の服をまとわせ、</p> <p>3 そばにやって来ては、「ユダヤ人の王、万歳」と言って、平手で打った。</p> <p>4 ピラトはまた出て来て、言った。「見よ、あの男をあなたたちのところへ引き出そう。そうすれば、わたしが彼に何の罪も見いだせないわけが分かるだろう。」</p> <p>5 イエスは茨の冠をかぶり、紫の服を着けて出て来られた。ピラトは、「見よ、この男だ」と言った。</p> <p>6 祭司長たちや下役たちは、イエスを見ると、「十字架につけろ。十字架につけろ」と叫んだ。ピラトは言った。「あなたたちが引き取って、十字架につけるがよい。わたしはこの男に罪を見いだせない。」</p> <p>7 ユダヤ人たちは答えた。「わたしたちには律法がありません。律法によれば、この男は死罪に当たります。神の子と自称したからです。」</p> <p>8 ピラトは、この言葉を聞いてますます恐れ、</p>

<p>25 民はこぞって答えた。「その血の責任は、我々と子孫にある。」</p> <p>26 そこで、ピラトはバラバを釈放し、イエスを鞭打ってから、十字架につけるために引き渡した。</p>		<p>25 そして、暴動と殺人のかどで投獄されていたバラバを要求どおりに釈放し、イエスの方は彼らに引き渡して、好きなようにさせた。</p>	<p>9 再び総督官邸の中に入って、「お前はどこから来たのか」とイエスに言った。しかし、イエスは答えようとされなかった。</p> <p>10 そこで、ピラトは言った。「わたしに答えないのか。お前を釈放する権限も、十字架につける権限も、このわたしにあることを知らないのか。」</p> <p>11 イエスは答えられた。「神から与えられていなければ、わたしに対して何の権限もないはずだ。だから、わたしをあなたに引き渡した者の罪はもっと重い。」</p> <p>12 そこで、ピラトはイエスを釈放しようと努めた。しかし、ユダヤ人たちは叫んだ。「もし、この男を釈放するなら、あなたは皇帝の女ではない。王と自称する者は皆、皇帝に背いています。」</p> <p>13 ピラトは、これらの言葉を聞くと、イエスを外に連れ出し、ヘブライ語でガバタ、すなわち「敷石」という場所で、裁判の席に着かせた。</p> <p>14 それは過越祭の準備の日の、正午ごろであった。ピラトがユダヤ人たちに、「見よ、あなたたちの王だ」と言うと、</p> <p>15 彼らは叫んだ。「殺せ。殺せ。十字架につける。」ピラトが、「あなたたちの王をわたしが十字架につけるのか」と言うと、祭司長たちは、「わたしたちには、皇帝のほかに王はありません」と答えた。</p> <p>16 そこで、ピラトは、十字架につけるために、イエスを彼らに引き渡した。</p>
<p>◆兵士から侮辱される</p> <p>27 それから、総督の兵士たちは、イエスを総督官邸に連れて行き、部隊の全員をイエスの周りに集めた。</p> <p>28 そして、イエスの着ている物をはぎ取り、赤い外套を着せ、</p> <p>29 茨で冠を編んで頭に載せ、また、右手に葦の棒を持たせて、その前にひざまずき、「ユダヤ人の王、万歳」と言って、侮辱した。</p> <p>30 また、唾を吐きかけ、葦の棒を取り上げて頭をたたき続けた。</p> <p>31 このようにイエスを侮辱したあげく、外套を脱がせて元の服を着せ、十字架につけるために引いて行った。</p>	<p>◆兵士から侮辱される</p> <p>16 兵士たちは、官邸、すなわち総督官邸の中に、イエスを引いて行き、部隊の全員を呼び集めた。</p> <p>17 そして、イエスに紫の服を着せ、茨の冠を編んでかぶらせ、</p> <p>18 「ユダヤ人の王、万歳」と言って敬礼し始めた。</p> <p>19 また何度も、葦の棒で頭をたたき、唾を吐きかけ、ひざまずいて拜んだりした。</p> <p>20 このようにイエスを侮辱したあげく、紫の服を脱がせて元の服を着せた。そして、十字架につけるために外へ引き出した。</p>		
<p>◆十字架につけられる</p> <p>32 兵士たちは出て行くと、シモンという名前のキレネ人に出会ったので、イエスの十字架を無理に担がせた。</p> <p>33 そして、ゴルゴタという所、すなわち「されこうべの場所」に着くと、</p> <p>34 苦いものを混ぜたぶどう酒を飲ませようとしたが、イエスはなめただけで、飲もうとされなかった。</p> <p>35 彼らはイエスを十字架につけると、くじを引いてその服を分け合い、</p> <p>36 そこに座って見張りをしていた。</p> <p>37 イエスの頭の上には、「これはユダヤ人の王イエスである」と書いた罪状書きを掲げた。</p> <p>38 折から、イエスと一緒に二人の強盗が、一人は右にもう一人は左に、十字架につけられていた。</p> <p>39 そこを通りかかった人々は、頭を振りながらイエスのものにして、</p>	<p>◆十字架につけられる</p> <p>21 そこへ、アレクサンドロとルフォスとの父でシモンというキレネ人が、田舎から出て来て通りかかったので、兵士たちはイエスの十字架を無理に担がせた。</p> <p>22 そして、イエスをゴルゴタという所——その意味は「されこうべの場所」——に連れて行った。</p> <p>23 没薬を混ぜたぶどう酒を飲ませようとしたが、イエスはお受けにならなかった。</p> <p>24 それから、兵士たちはイエスを十字架につけて、その服を分け合った、だれが何を取るかをくじ引きで決めてから。</p> <p>25 イエスを十字架につけたのは、午前九時であった。</p> <p>26 罪状書きには、「ユダヤ人の王」と書いてあった。</p> <p>27 また、イエスと一緒に二人の強盗を、一人は右にもう一人は左に、十字架につけた。</p> <p>†</p>	<p>◆十字架につけられる</p> <p>26 人々はイエスを引いて行く途中、田舎から出て来たシモンというキレネ人を捕まえて、十字架を背負わせ、イエスの後ろから運ばせた。</p> <p>27 民衆と嘆き悲しむ婦人たちが大きな群れを成して、イエスに従った。</p> <p>28 イエスは婦人たちの方を振り向いて言われた。「エルサレムの娘たち、わたしのために泣くな。むしろ、自分と自分の子供たちのために泣け。」</p> <p>29 人々が、『子を産めない女、産んだことのない胎、乳を飲ませたことのない乳房は幸いだ』と言う日が来る。</p> <p>30 そのとき、人々は山に向かっては、『我々の上に崩れ落ちてくれ』と言い、丘に向かっては、『我々を覆ってくれ』と言い始める。</p> <p>31 『生の木』さえこうされるのなら、『枯れた木』はいったいどうなるのだろうか。」</p>	<p>◆十字架につけられる</p> <p>こうして、彼らはイエスを引き取った。</p> <p>17 イエスは、自ら十字架を背負い、いわゆる「されこうべの場所」、すなわちヘブライ語でゴルゴタという所へ向かわれた。</p> <p>18 そこで、彼らはイエスを十字架につけた。また、イエスと一緒にほかの二人をも、イエスを真ん中にして両側に、十字架につけた。</p> <p>19 ピラトは罪状書きを書いて、十字架の上に掛けた。それには、「ナザレのイエス、ユダヤ人の王」と書いてあった。</p> <p>20 イエスが十字架につけられた場所は都に近かったので、多くのユダヤ人がその罪状書きを読んだ。それは、ヘブライ語、ラテン語、ギリシア語で書かれていた。</p> <p>21 ユダヤ人の祭司長たちがピラトに、『ユダヤ人の王』</p>

<p>40 言った。「神殿を打ち倒し、三日で建てる者、神の子なら、自分を救ってみろ。そして十字架から降りて来い。」</p> <p>41 同じように、祭司長たちも律法学者たちや長老たちと一緒に、イエスを侮辱して言った。</p> <p>42 「他人は救ったのに、自分は救えない。イスラエルの王だ。今すぐ十字架から降りるがいい。そうすれば、信じてやろう。」</p> <p>43 神に頼っているが、神の御心ならば、今すぐ救ってもらえ。『わたしは神の子だ』と言っていたのだから。」</p> <p>44 一緒に十字架につけられた強盗たちも、同じようにイエスをののしった。</p>	<p>29 そこを通りかかった人々は、頭を振りながらイエスをののしって言った。「おやおや、神殿を打ち倒し、三日で建てる者、</p> <p>30 十字架から降りて自分を救ってみろ。」</p> <p>31 同じように、祭司長たちも律法学者たちと一緒にになって、代わる代わるイエスを侮辱して言った。「他人は救ったのに、自分は救えない。」</p> <p>32 メシア、イスラエルの王、今すぐ十字架から降りるがいい。それを見たら、信じてやろう。」一緒に十字架につけられた者たちも、イエスをののしった。</p>	<p>32 ほかに、二人の犯罪人が、イエスと一緒に死刑にされるために、引かれて行った。</p> <p>33 「されこうべ」と呼ばれている所に来ると、そこで人々はイエスを十字架につけた。犯罪人も、一人は右に一人は左に、十字架につけた。</p> <p>34 「そのとき、イエスは言われた。「父よ、彼らをお赦しください。自分が何をしているのか知らないのです。」人々はくじを引いて、イエスの服を分け合った。</p> <p>35 民衆は立って見つめていた。議員たちも、あざ笑って言った。「他人を救ったのだ。もし神からのメシアで、選ばれた者なら、自分を救うがよい。」</p> <p>36 兵士たちもイエスに近寄り、酸いぶどう酒を突きつけながら侮辱して、</p> <p>37 言った。「お前がユダヤ人の王なら、自分を救ってみろ。」</p> <p>38 イエスの頭の上には、「これはユダヤ人の王」と書いた札も掲げてあった。</p> <p>39 十字架にかけられていた犯罪人の一人が、イエスをののしった。「お前はメシアではないか。自分自身と我々を救ってみろ。」</p> <p>40 すると、もう一人の方がたしなめた。「お前は神をも恐れられないのか、同じ刑罰を受けているのに。」</p> <p>41 我々は、自分のやったことの報いを受けているのだから、当然だ。しかし、この方は何も悪いことをしていない。」</p> <p>42 そして、「イエスよ、あなたの御国においてになるときには、わたしを思い出してください」と言った。</p> <p>43 するとイエスは、「はっきり言うておくが、あなたは今日わたしと一緒に楽園にいる」と言われた。</p>	<p>と書かず、『この男は「ユダヤ人の王」と自称した』と書いてください」と言った。</p> <p>22 しかし、ピラトは、「わたしが書いたものは、書いたままにしておけ」と答えた。</p> <p>23 兵士たちは、イエスを十字架につけてから、その服を取り、四つに分け、各自に一つずつ渡すようにした。下着も取って見たが、それには縫い目がなく、上から下まで一枚織りであった。</p> <p>24 そこで、「これは裂かないで、だれのものになるか、くじ引きで決めよう」と話し合った。それは、「彼らはわたしの服を分け合い、わたしの衣服のことでくじを引いた」という聖書の言葉が実現するためであった。兵士たちはこのとおりにしたのである。</p> <p>25 イエスの十字架のそばには、その母と母の姉妹、クロパの妻マリアとマグダラのマリアとが立っていた。</p> <p>26 イエスは、母とそのそばにいる愛する弟子とを見て、母に、「婦人よ、御覧なさい。あなたの子です」と言われた。</p> <p>27 それから弟子に言われた。「見なさい。あなたの母です。」そのときから、この弟子はイエスの母を自分の家に引き取った。</p>
<p>◆イエスの死</p> <p>45 さて、昼の十二時に、全地は暗くなり、それが三時まで続いた。</p> <p>46 三時ごろ、イエスは大声で叫ばれた。「エリ、エリ、レマ、サバクタニ。」これは、「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」という意味である。</p> <p>47 そこに居合わせた人々のうちには、これを聞いて、「この人はエリヤを呼んでいる」と言う者もいた。</p> <p>48 そのうちの一人が、すぐに走り寄り、海綿を取って酸いぶどう酒を含ませ、葦の棒に付けて、イエスに飲ませようとした。</p> <p>49 ほかに人々は、「待て、エリヤが彼を救いに来るかどうか、見てみよう」と言った。</p> <p>50 しかし、イエスは再び大声で叫び、息を引き取られた。</p> <p>51 そのとき、神殿の垂れ幕が上から下まで真二つに裂け、地震が起こり、岩が裂け、</p> <p>52 墓が開いて、眠りについていた多くの聖なる者たちの体が生き返った。</p> <p>53 そして、イエスの復活の後、墓から出て来て、聖なる都に入り、多くの人々に現れた。</p> <p>54 百人隊長と一緒にイエスの見張りをしていた人たちは、地震やいろいろの出来事を見て、非常に恐れ、「本当に、この人は神の子だった」と言った。</p>	<p>◆イエスの死</p> <p>33 昼の十二時になると、全地は暗くなり、それが三時まで続いた。</p> <p>34 三時にイエスは大声で叫ばれた。「エロイ、エロイ、レマ、サバクタニ。」これは、「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」という意味である。</p> <p>35 そばに居合わせた人々のうちには、これを聞いて、「そら、エリヤを呼んでいる」と言う者がいた。</p> <p>36 ある者が走り寄り、海綿に酸いぶどう酒を含ませて葦の棒に付け、「待て、エリヤが彼を降ろしに来るかどうか、見てみよう」と言いながら、イエスに飲ませようとした。</p> <p>37 しかし、イエスは大声を出して息を引き取られた。</p> <p>38 すると、神殿の垂れ幕が上から下まで真二つに裂けた。</p> <p>39 百人隊長がイエスの方を向いて、そばに立っていた。そして、イエスがこのように息を引き取られたのを見て、「本当に、この人は神の子だった」と言った。</p> <p>40 また、婦人たちも遠くから見守っていた。その中には、マグダラのマリア、小ヤコブとヨセの母マリア、そしてサロメがいた。</p> <p>41 この婦人たちは、イエスがガリラヤにおられたとき、イエスに従って来て世話をしていた人々である。なおそのほかに、イエスと共にエルサレムへ上って来た婦</p>	<p>◆イエスの死</p> <p>44 既に昼の十二時ごろであった。全地は暗くなり、それが三時まで続いた。</p> <p>45 太陽は光を失っていた。神殿の垂れ幕が真ん中から裂けた。</p> <p>46 イエスは大声で叫ばれた。「父よ、わたしの霊を御手にゆだねます。」こう言って息を引き取られた。</p> <p>47 百人隊長はこの出来事を見て、「本当に、この人は正しい人だった」と言って、神を賛美した。</p> <p>48 見物に集まっていた群衆も皆、これらの出来事を見て、胸を打ちながら帰って行った。</p> <p>49 イエスを知っていたすべての人たちと、ガリラヤから従って来た婦人たちとは遠くに立って、これらのことを見ていた。</p>	<p>◆イエスの死</p> <p>28 この後、イエスは、すべてのことが今や成し遂げられたのを知り、「渴く」と言われた。こうして、聖書の言葉が実現した。</p> <p>29 そこには、酸いぶどう酒を満した器が置いてあった。人々は、このぶどう酒をいっぱい含ませた海綿をヒソブに付け、イエスの口もとに差し出した。</p> <p>30 イエスは、このぶどう酒を受けると、「成し遂げられた」と言い、頭を垂れて息を引き取られた。</p> <p>◆イエスのわき腹を槍で突く</p> <p>31 その日は準備の日で、翌日は特別の安息日であったので、ユダヤ人たちは、安息日に遺体を十字架の上に残しておかないために、足を折って取り降ろすように、ピラトに願ひ出た。</p> <p>32 そこで、兵士たちが来て、イエスと一緒に十字架につけられた最初の男と、もう一人の男との足を折った。</p> <p>33 イエスのところに来てみると、既に死んでおられたので、その足は折らなかつた。</p> <p>34 しかし、兵士の一人が槍でイエスのわき腹を刺した。すると、すぐ血と水とが流れ出た。</p> <p>35 それを目撃した者が証ししており、その証しは真実である。その者は、あなたがたにも信じさせるために、自分が真実を語っていることを知っている。</p> <p>36 これらのことが起こったのは、「その骨は一つも砕か</p>

<p>55 またそこでは、大勢の婦人たちが遠くから見守っていた。この婦人たちは、ガリラヤからイエスに従って来て世話をしていた人々である。</p> <p>56 その中には、マグダラのマリア、ヤコブとヨセフの母マリア、ゼベダイの子らの母がいた。</p>	<p>人たちが大勢いた。</p>		<p>れない」という聖書の言葉が実現するためであった。</p> <p>37 また、聖書の別の所に、「彼らは、自分たちの突き刺した者を見る」とも書いてある。</p>
<p>◆墓に葬られる</p> <p>57 夕方になると、アリマタヤ出身の金持ちでヨセフという人が来た。この人もイエスの弟子であった。</p> <p>58 この人がピラトのところに行って、イエスの遺体を渡してくれるようにお願いした。そこでピラトは、渡すように命じた。</p> <p>59 ヨセフはイエスの遺体を受け取ると、きれいな亜麻布に包み、</p> <p>60 岩に掘った自分の新しい墓の中に納め、墓の入り口には大きな石を転がしておいて立ち去った。</p> <p>61 マグダラのマリアともう一人のマリアとはそこに残り、墓の方を向いて座っていた。</p>	<p>◆墓に葬られる</p> <p>42 既に夕方になった。その日は準備の日、すなわち安息日の前日であったので、</p> <p>43 アリマタヤ出身で身分の高い議員ヨセフが来て、勇気を出してピラトのところへ行き、イエスの遺体を渡してくれるようにお願いした。この人も神の国を待ち望んでいたのである。</p> <p>44 ピラトは、イエスがもう死んでしまったのかと不思議に思い、百人隊長を呼び寄せて、既に死んだかどうかを尋ねた。</p> <p>45 そして、百人隊長に確かめたうえ、遺体をヨセフに下げ渡した。</p> <p>46 ヨセフは亜麻布を買い、イエスを十字架から降ろしてその布で巻き、岩を掘って作った墓の中に納め、墓の入り口には石を転がしておいた。</p> <p>47 マグダラのマリアとヨセの母マリアとは、イエスの遺体を納めた場所を見つめていた。</p>	<p>◆墓に葬られる</p> <p>50 さて、ヨセフという議員がいたが、善良な正しい人で、</p> <p>51 同僚の決議や行動には同意しなかった。ユダヤ人の町アリマタヤの出身で、神の国を待ち望んでいたのである。</p> <p>52 この人がピラトのところに行き、イエスの遺体を渡してくれるようにお願いして、</p> <p>53 遺体を十字架から降ろして亜麻布で包み、まだだれも葬られたことのない、岩に掘った墓の中に納めた。</p> <p>54 その日は準備の日であり、安息日が始まるようになっていた。</p> <p>55 イエスと一緒にガリラヤから来た婦人たちは、ヨセフの後について行き、墓と、イエスの遺体が納められている有様とを見届け、</p> <p>56 家に帰って、香料と香油を準備した。</p>	<p>◆墓に葬られる</p> <p>38 その後、イエスの弟子でありながら、ユダヤ人たちを恐れて、そのことを隠していたアリマタヤ出身のヨセフが、イエスの遺体を取り降ろしたいと、ピラトに願い出た。ピラトが許したので、ヨセフは行って遺体を取り降ろした。</p> <p>39 そこへ、かつてある夜、イエスのもとに来たことのあるニコデモも、没薬と沈香を混ぜた物を百リトラばかり持って来た。</p> <p>40 彼らはイエスの遺体を受け取り、ユダヤ人の埋葬の習慣に従い、香料を添えて亜麻布で包んだ。</p> <p>41 イエスが十字架につけられた所には園があり、そこには、だれもまだ葬られたことのない新しい墓があった。</p> <p>42 その日はユダヤ人の準備の日であり、この墓が近かったため、そこにイエスを納めた。</p>
<p>◆番兵、墓を見張る</p> <p>62 明るる日、すなわち、準備の日の翌日、祭司長たちとファリサイ派の人々は、ピラトのところに集まって、</p> <p>63 こう言った。「閣下、人を惑わすあの者がまだ生きていたとき、『自分は三日後に復活する』と言っていたのを、わたしたちは思い出しました。</p> <p>64 ですから、三日目まで墓を見張るように命令してください。そうでないと、弟子たちが来て死体を盗み出し、『イエスは死者の中から復活した』などと民衆に言いふらすかもしれません。そうすると、人々は前よりもひどく惑わされることになります。」</p> <p>65 ピラトは言った。「あなたたちには、番兵がいるはずだ。行って、しっかりと見張らせるがよい。」</p> <p>66 そこで、彼らは行って墓の石に封印をし、番兵をおいた。</p>			